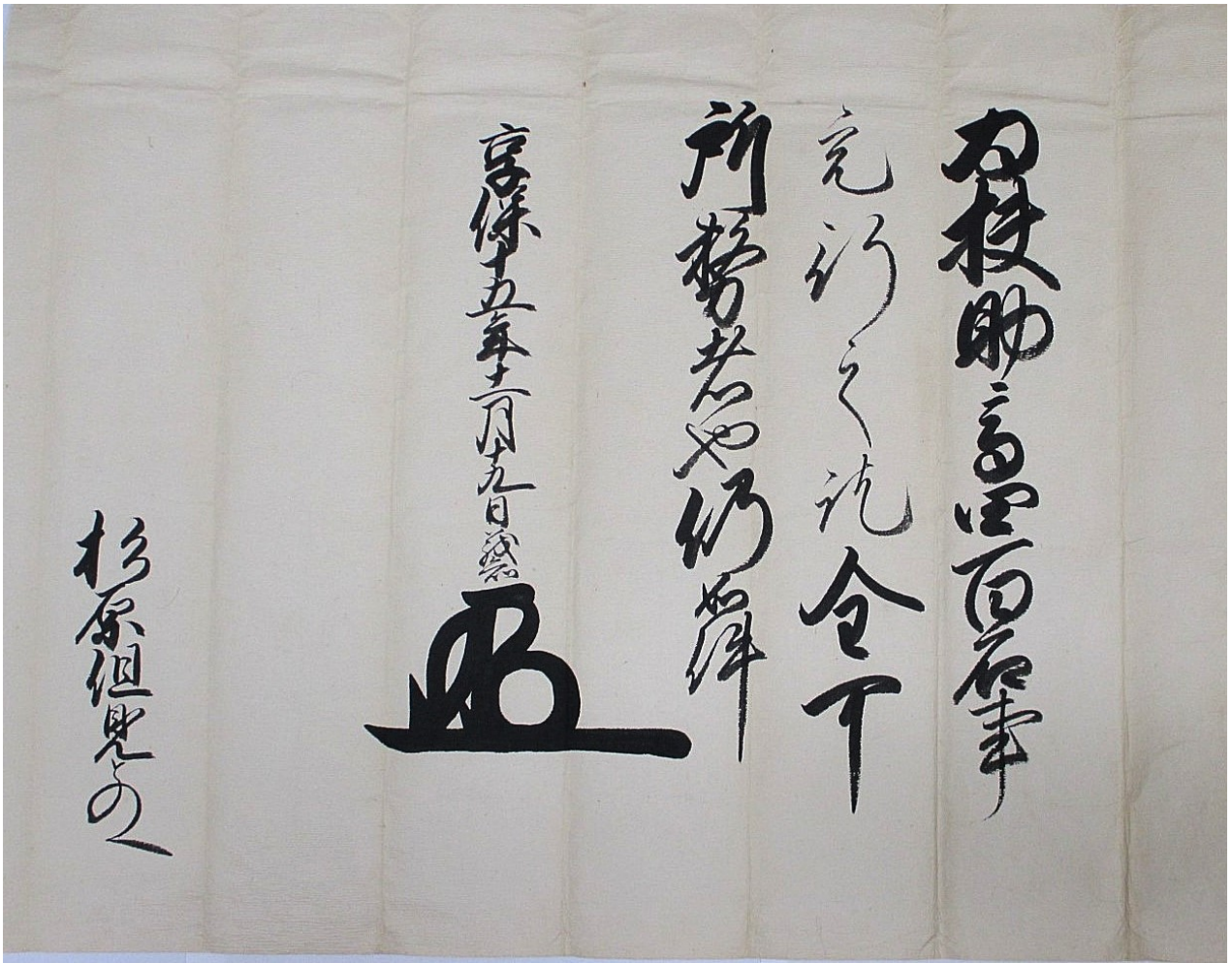


⑭〔松平義知（明矩）宛行状〕

あきのり あてが い
享保 15 (1730) 年 11 月 19 日

白河藩主松平義知（明矩、1713～1749年）が、一番番頭ばんがしらの杉原但見正房りょうしへ400石の知行ちぎょうを与えた文書です。料紙は豎紙8折り、藩主の署名花押かおうが用いられています。松平家では、花押は番頭ばんがしら次席以上、豎紙は役付き以上の上級家臣に用いられることになっていました（稲葉朝成『結城松平家と家臣団』）。杉原氏は寛永11（1634）年姫路において松平氏に仕え、のちに400石の家禄となり、番外頭・参政などの職を勤めています。どのような経緯で大沢氏が収集したかは不明です。



【史料⑭】〔松平義知（明矩）宛行状〕（享保十五年）

〔釈文〕

為三扶助二高四百石事、

充三行之二訖、全可二

所務二者也、仍如レ件

享保十五年十一月十九日 義知（花押）

杉原但見とのへ

〔読み下し文〕

扶助として、

高四百石の事、

これを充行おわんぬ、

全て所務すべきものなり、

仍って件のごとし

享保十五年十一月十九日 義知（花押）

杉原但見とのへ